

令和6年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和7年度～令和9年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	医療費給付事業（重度・身障3級）		
政策	あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち/共に見守り支え合い、包括的支援によるまちづくり	担当課	市民課
施策①	支え合う地域共生社会の実現	電話番号	0193-27-8491
施策②	障がい福祉の充実	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト		新規・継続	継続
4つの柱		補助・単独	補助
事業期間	令和4年度～令和9年度		
事業の概要			
重度心身障害者及び身体障害者（3級）の健康の保持と経済的負担の軽減を図ることを目的に、保険診療の医療費一部負担金を助成し、医療を受けやすい環境を提供するもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	
障がい者は、健常者と比較し医療受診頻度も高く、病院医療費等の一部負担金支払いが経済的な負担となっている。	
目的	
医療費の一部を給付し、適正な医療受診と心身の健康を保持することで、生活の安定と福祉の増進を図る。	

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
医療機関で支払った医療費（一部負担金）から診療報酬支払明細ごとに対象者の自己負担額を差し引いた額を給付する。		
事業費		
R 7	R 8	R 9
91190 千円	91190 千円	91190 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
他の事業等と合わせて市の施策として広く PR すること。また、こども医療費の補助は他市町村でも広く実施されていることから、県に対し一律で負担するように要望を継続すること。			

令和6年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和7年度～令和9年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	重層的支援体制整備事業（政策分）		
政策	あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち/共に見守り支え合い、包括的支援によるまちづくり	担当課	地域福祉課
施策①	支え合う地域共生社会の実現	電話番号	
施策②	総合的な相談支援体制の構築・強化	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	健康寿命日本一に向けて	新規・継続	継続
4つの柱		補助・単独	補助
事業期間	令和6年度～令和9年度		
事業の概要			
属性・世代を問わない相談・地域づくりの体制整備を既存事業と一体的に実施することにより、地域生活課題を抱える地域住民及びその世帯に対する支援体制並びに地域住民等による地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備するもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	
8050世帯、介護と育児のダブルケア、孤立した世帯など、地域住民が抱える課題は複雑化・複合化している。障がい者、高齢者、子ども、生活困窮者といった属性別の支援体制では、複合課題や制度の狭間のニーズへの対応が困難である。また、生活困窮などを理由にサービス利用を控える隠れ要支援者やひきこもりの把握が現状では難しい状況にある。	
目的	
「相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に取り組むことで、相互作用により支援の効果を高め、地域共生社会の実現に資する。	

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
基幹相談支援センターの運営、応援センターを活用し、生活困窮者等への支援につながる相談会等を開催、対象住民に関する社会資源へのマッチング、定着支援、支援関係機関や地域住民等の関係者（民生委員など）からの情報収集活動、対象者の実態・ニーズ把握調査活動、関係性構築に向けた継続的な訪問活動、関係機関の連携構築、重層的支援会議の開催運営、支援プランの作成		
事業費		
R 7	R 8	R 9
35986 千円	35986 千円	35986 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	見直し余地あり	適切
評価結果			
引き続き、持続可能な体制となるよう関係者と密に協議を行い、国の補助金等を活用しつつ釜石市の規模・実情に即した適切な体制整備を行うこと。			

令和6年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和7年度～令和9年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	手話言語理解促進事業		
政策	あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち/共に見守り支え合い、包括的支援によるまちづくり	担当課	地域福祉課
施策①	支え合う地域共生社会の実現	電話番号	22-0177
施策②	ユニバーサルデザインの推進	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト		新規・継続	継続
4つの柱		補助・単独	補助
事業期間	令和5年度～令和7年度		
事業の概要			
<p>当市は、手話が言語であるとの認識に基づき、ろう者とろう者以外の者が共生することのできる地域社会を実現することを目的に、令和3年6月に釜石市手話言語条例を制定しており、条例に基づき、手話に対する理解、手話の普及、地域において手話を使用しやすい環境の構築を進めようとするもの。</p>			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	手話の理解、普及が不足しているため、ろう者があらゆる場面で手話による意思疎通ができる環境が整っていない。
目的	多くの市民が、手話に対する理解を深め、ろう者が手話を使用しやすい環境が整い、ろう者の社会参加が進む。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<p>「異を楽しむ世界を創る」をミッションに掲げ、謎解きに手話を取り入れた「異言語脱出ゲーム」を企画・運営する「異言語 Lab.」を招聘し、手話によるエンターテインメントと伝え合うをテーマとした芸術文化体験を提供する。</p>		
事業費		
R 7	R 8	R 9
1180 千円	0 千円	0 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
<p>地域経営推進費の交付期間である令和7年度を区切りとし、一旦事業を完了とする。当事業の効果検証を確実にを行い、今後の新たな打ち手を検討すること。</p>			

令和6年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和7年度～令和9年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	障がい理解音楽祭開催事業		
政策	あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち/共に見守り支え合い、包括的支援によるまちづくり	担当課	地域福祉課
施策①	支え合う地域共生社会の実現	電話番号	22-0177
施策②	障がい福祉の充実	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト		新規・継続	継続
4つの柱		補助・単独	単独
事業期間	令和6年度～令和7年度		
事業の概要			
障がいのある人とない人が触れ合うことで、多様性を認め合う、インクルーシブな社会の実現を目指すため、ストリートで障がい者が参加する音楽イベントを開催し、人々の気づきと変容を促すもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	障がい者に対する心理的なバリアがあり、生きにくさを抱えている。
目的	障がい理解を進め、障がいがあっても希望する地域で役割を持って生き生きと暮らすことのできるまちづくりを進める。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
障がい者が参加する音楽イベントをストリートで開催する。		
事業費		
R 7	R 8	R 9
300 千円	0 千円	0 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	見直し余地あり	適切
評価結果			
寄附金の残額を鑑み令和7年度を区切りとし、一旦事業を完了とする。当事業の効果検証を確実にを行い、今後の新たな打ち手を検討すること。			

令和6年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和7年度～令和9年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	障がい者グループホーム整備事業補助金		
政策	あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち/共に見守り支え合い、包括的支援によるまちづくり	担当課	地域福祉課
施策①	安心して生活できる体制の充実	電話番号	22-0177
施策②	生活を支える福祉の充実	ハード・ソフト	ハード
重点プロジェクト		新規・継続	新規
4つの柱		補助・単独	単独
事業期間	令和7年度～令和7年度		
事業の概要			
生活を支える福祉の充実のため、NPO 法人が計画しているグループホーム整備に対し、補助金を交付するもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
当圏域には、県内で最も共同生活援助事業所が少なく、グループホームでの生活を希望しても入所できる場所がないため、近隣の市町村に出でいかざるを得ない。
目的
グループホームの資源を増やし、障がい者が希望する地域で生活できる環境を整えたい。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
障がい者グループホームの新設を計画している法人に対し、施設整備費の一部に補助金を交付する。		
事業費		
R 7	R 8	R 9
7500 千円	0 千円	0 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	適切	適切
評価結果			
福祉の充実へ向けて必要な補助である。関係者と連携し障がい者の面的な支援体制を構築すること。			

令和6年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和7年度～令和9年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	介護施設等整備事業費補助金		
政策	あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち/共に見守り支え合い、包括的支援によるまちづくり	担当課	高齢介護福祉課
施策①	釜石版地域包括ケアシステムの充実	電話番号	22-0178
施策②	地域包括ケア連携の推進	ハード・ソフト	ハード
重点プロジェクト		新規・継続	継続
4つの柱		補助・単独	補助
事業期間	平成28年度～令和9年度		
事業の概要			
今後、増加が予測される認知症高齢者を含めた要介護者等について、住み慣れた地域での生活を支えていくために民間活力を導入し、民間事業者が行う地域密着型サービス施設等の整備に係る経費の一部に対し、補助金を交付するもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	
<p>当市の高齢化率は令和6年5月末現在40.8%で、当市の人口減少に比例し、高齢者人口も減少してきているが、独居高齢者数は4,314人、高齢者のみの世帯は6,561となっている。</p> <p>また、要介護認定者に対する認知症高齢者の割合は年々増加しており、介護が必要となっても、住み慣れた地域で、尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けられる共生社会の実現が求められている。</p>	
目的	
<p>高齢者の方が、介護が必要になった場合でも、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられることで高齢者の住まい方の充実が図られる。</p> <p>また、家族介護者の負担軽減・家族介護者への支援の推進が図られる。</p>	

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<ul style="list-style-type: none"> 事業を実施する民間事業者を公募し、選定委員会において事業者を選定し、その後、市地域密着型サービス運営委員会に諮り、事業者を決定する。 その後、補助金による事業者支援を行う。 現在ある施設等を活用し、利用者のニーズに沿ったサービス内容の施設に転換し、サービス内容の充実を図る。 		
事業費		
R 7	R 8	R 9
0千円	21988千円	0千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
市と民間の連携による地域包括ケアの推進を図るための重要な事業である。第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画等に基づき、今後当市に必要な介護サービス水準の維持・向上に努めること。			